

日本映画放送株式会社 第96回番組審議会議事録

1. 開催年月日：令和8年2月10日(火) 15時～

2. 開催方式：対面、web会議ツールにて実施

3. 委員(順不同・敬称略)

出席：鈴木 嘉一・宮崎 美紀子・砂川 浩慶・山川 鉄郎・馬場 康夫

web会議ツールにて出席：尾形 敏朗・倉田 真由美・神田 由築

放送事業者

代表取締役社長:宮川 朋之

執行役員:桑田 靖

編成制作局長:小川 英洋

編成制作局：三品 貴志（編成部）、三瓶 祐毅（編成部）、田倉 拓紀（制作部）

番審担当:澤 尚志、碓井 恭子

4. 議題

(1) 審議事項：時代劇専門チャンネル『鬼平犯科帳 兇剣』独占初放送について

(2) 報告事項：日本映画専門チャンネル『3カ月連続 成瀬巳喜男4K』について

5. 議題 (1) 時代劇専門チャンネル『鬼平犯科帳 兇剣』独占初放送

1月に独占初放送された松本幸四郎主演の『鬼平犯科帳』第7弾では、第1弾で平蔵の親友・岸井左馬之助を演じた山口馬木也が再登場。山口は2024年公開の主演作『侍タイムスリッパ』で注目を集め、本作での松本との共演が話題に。京都や奈良のロケ撮影が中心で、風情を楽しめる点が過去作と異なる。放送前にTOHOシネマズ3館で先行上映を実施し、特に日比谷では連日満席に近い盛況だった。

6. 議題 (1) 審議内容 ※文中敬称略

- ・山口馬木也は知名度と評価を高め、左馬之助としての存在感が増し、作品全体の完成度も向上。殺陣シーンや映像美が素晴らしかったが、裸馬が先に登場する演出には違和感を覚えた。アフタートークでは浅利陽介の軽妙なトークがとても良く、作品とセットで配信販売するのも良いのではないか。
- ・松本演じる平蔵は板についており、友情を軸にした描写や殺陣が魅力的。松本と山口のコンビは新しい時代劇ファンを獲得しそうだが、平蔵の無双感が薄れた点が惜しい。密偵たちの出番が少なく、画面が暗く俳優の表情が見えにくい点も気になった。
- ・作品に大きな不満はないが、時代劇と現代の距離感を感じた。江戸時代の文化や食事描

写に疑問が浮かび、話に入り込めなかった。時代劇の全盛期から70年経った今、現代に合った新しい描き方が必要ではないか。

- ・ 山口登場のタイミングが絶妙で見応え十分だが、受けて逆算的に企画されたのかと穿ってしまい、『兇剣』という『鬼平』シリーズにしてはシンプルな物語が選ばれたのも、松本と山口の2ショットを際立たせる意図があったように見えた。松本と山口の2ショットや渡辺いっけいの悪役ぶりが印象的。アフタートークでは作品の魅力を補完しており、本編とセットでの提供が望ましい。
- ・ 冒頭の軍鶏鍋屋の場面は初見の視聴者には分かりにくい。演出の問題かと思う。およねの大和行きの動機が不明瞭で、原作を確認したくなった。山口主演の時代劇を観たいという期待が高まる一方、若手監督の育成やバックアップの必要性を感じた。
- ・ 1時間という尺がテンポ良く、観やすさにつながっていた。山口の存在感が増し、食べ物の描写が感情移入を助けていた。初見の視聴者とファンの両方が楽しめるよう、ストーリー展開に工夫が見られた。
- ・ 本作の魅力は、時代劇特有のブロマンスを「2段階の波状攻撃」で描いた点。鬼平と左馬之助の関係性が際立ち、剣豪同士の一騎打ちも美学が息づいていた。一方で、現代的な描写が鬼平の世界観を薄めた印象もあるが、シリーズとしての完成度は高く、今後の展開が楽しみ。
- ・ 京都・奈良のロケ映像が新鮮で、悪党の描き方も印象的。渡辺いっけい演じる高津の玄丹の多面性が主人公の魅力を引き立てた。湯豆腐のシーンの台詞が後の展開と響き合い、脚本の妙を感じた。60分に多くの要素が詰まった満足度の高い作品だった。

弊社からの回答

- ・ アフタートークは配信や劇場上映との差別化において重要なコンテンツであり、宣伝時にも「チャンネル限定アフタートーク」を強調している。過去の公開収録イベントではチケットが即完売するほどの人気で、鬼平ファンの熱量の高さが示された。
- ・ 時代劇は日本独自のコンテンツであり、挑戦が必要だが、『鬼平』シリーズは定番を守りつつ新しい切り口を模索している。火野正平氏の不在を補う工夫や、山口の早期キャスティングなど、制作側の努力が見られる。裸馬の登場は原作通りであり、視聴者の受け取り方を重視した演出が行われた。

7. (2) 報告事項

日本映画専門チャンネル『3カ月連続 成瀬巳喜男4K』

2025年に生誕100周年を迎える成瀬巳喜男監督の『浮雲』『めし』『銀座化粧』を4Kデジタルリマスター版でテレビ初放送。『浮雲』放送時には岡田茉莉子のトークショーも併せて放送。岡田は成瀬監督の演出や共演者との思い出を語り、日本映画史に残る貴重な証言を残した。

- ・日本映画の名作ライブラリーは配信や地上波での放送が少なく、4K化による再評価が重要。視聴率も「4K特集」の方が高く、名作を4K化して放送・配信することが我々の役割。流行を追うのではなく、時の試練に耐える作品を扱うことが存在価値だと考える。

8. 連絡事項 次回、第97回番組審議会は2026年5月12日(火)、15時から対面、オンラインのハイブリッドにて開催予定。